

人にやさしく！

子どもたちのためにありがとうございました！

色調豊かな緑から、みなぎる生命力を感じる頃となりました。拡大の一途をたどっていた感染症も、ようやく治まる気配が感じられるようになり、少し安堵しています。これから先生方とともに、学校の再開に向けて少しずつ準備を整えていきますので、今後も皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

現在学校は臨時休校中で、保護者の方々に見ていただく機会がありませんが、昨年「丹波市小学校自然いっぱい緑化事業」で、体育館前に植えた「ヒドラツツジ」が写真のようにきれいな花を咲かせました。助成金を贈っていただいたローソン株式会社の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。(ホームページでも公開中)

そして、今回の新型コロナウイルス感染症対策では、保護者の方から子どもと教職員にマスクを寄付していただきました。教員からも、子どもの学校生活での感染予防にと大量の消毒液を寄付してもらいました。また、感染予防のため遊具の使用が禁止になっている今こそと、遊具の塗り替えを無償で申し出てくれた会社もありました。

世界中に感染が広がり、学校や会社もお休みになり、それぞれが大変な思いをしている中であって、本校の子どもたちのために尽力していただいたことに深く感謝します。本当にありがとうございました。



スクールカウンセラーについて

今年度も、臨床心理士である濱家敦子はまいえあつこさんが、毎月1回金曜日(12:00~18:00)にカウンセラーとして、来校されます。主に児童の心の相談について、カウンセリングをおこないますが、保護者の方々の相談にも応じていただきます。事前にお電話をくだされば予約を取らせていただきます。なお、窓口は教頭の常盤です。詳細は、教頭までお問い合わせください。予約 丹波市小学校 TEL63-4110

「こどもの読書週間」について



4月23日は子ども読書の日でした。子どもの読書活動についての関心と理解を深め、積極的に読書活動を行う意欲を高めるために、法律で「子ども読書の日」と定められました。また、4月23日から5月12日までは、「こどもの読書週間」と定められ、今年の標語は『出会えたね。とびっきりの1冊に。』でした。今年は、感染症予防のために自宅にいる時間が多く、この読書期間が過ぎた今も、本を読むためにたくさんの時間を使うことができると思います。

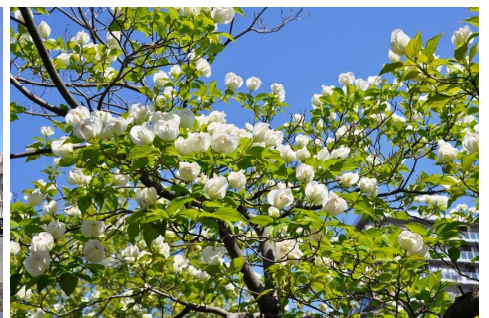
ぜひ、子どもと一緒に本を読んだり、読んでいる本のことで会話をしたりして、好きな本を気軽に読んで楽しむことを教えてあげてください。

なお、家庭における読書習慣では、「子どもたちの身近にいつも本を置くことを考え、毎日たとえ短い時間でも本を読むことをすすめる、本を読むのを聞いてあげること」や、「おうちの方みずからが読書する姿を、子どもたちの眼にふれさせること」が大切だと言われています。

学校が再開後には、本校でも読書活動を推進し、毎週火曜日の朝は一斉読書の日として読書に親しみ、また学級でも図書室を利用する時間を設けて読書を楽しみたいと思います。ご家庭でも、子どもたちに温かい声かけをよろしくお願い申し上げます。

「なんじゃもんじゃ」と「はなみずき」

今年も、体育館前の花壇に、プロペラ型の真っ白い「なんじゃもんじゃ」の花が見事に咲きました。(写真左) 開花時期は5/10頃までで、もうすでに大半は散っています。正式名は「ヒツバタゴ」ですが、「なんじゃもんじゃ」の名前は、明治時代、この木の名前がわからなかったため「何の木じゃ?」と呼ばれているうちに、いつのまにか「なんじゃもんじゃ?」という変わった名前になってしまったということです。



また、写真右は、「なんじゃもんじゃ」の隣の花壇の「ハナミズキ」です。花のように見える白いところを苞(ほう)といいますが、苞はつぼみを包んでいる葉で花ではありません。苞のなかに小さい花が集まっていて、苞はつぼみを保護する働きをしています。ハナミズキは、普通は4枚の苞の中に花が包まれているが、本校のハナミズキはその苞が4枚以上あり、八重と呼ばれる珍しい品種です。

来年は、ぜひ子どもたちや保護者の皆様に、大きな感動とともに見ていただければと思います。(ホームページでも公開中)